

めぐみイエス・キリスト教会

2025年7月27日(日)第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第768号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌137「聖なる聖なる」 p. 193

【交読文】 No.56 ローマ人への手紙12章 p. 924

【賛美Ⅱ】 新聖歌503「愛の御神よ」 p. 805

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「神の都へ」

【聖書朗読】 ルカの福音書9章57節～62節 (p. 134上段)

【礼拝説教】 《私に従って来なさい》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所

9:57 彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。」

9:58 イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巢があるが、人の子には枕するところありません。」

9:59 イエスは別の人に、「**私に従って来なさい**」と言われた。しかし、その人は言った。「まず行って、父を葬ることをお許してください。」

9:60 イエスは彼に言われた。「死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」

9:61 また、別の人が言った。「主よ、あなたに従います。ただ、まず自分の家の者たちに、別れを告げることをお許してください。」

9:62 すると、イエスは彼に言われた。「鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。」

●ポイント1.「私はついて行きます」と「私について来なさい」とは？

※マタイの福音書4章18節～20節「ガリラヤ湖畔にて」 (新約p.5)

4:18 イエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。

4:19 イエスは彼らに言われた。「**私について来なさい**。人間をとる漁師にしてあげよう。」

4:20 彼らはすぐに網を捨ててイエスに従った。

※ヨハネの福音書15章16節「最後の晩餐にて」 (新約p.216)

15:16「あなたがたが私を選んだのではなく、私があなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたが私の名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」

●ポイント2.「鋤に手をかけて後ろを見る者」とは？

※ルカの福音書9章62節「現代訳聖書から」

9:62 すると、イエスはこう言われた。「だれでも**私に従って行く**決意をしてから、この世のものに心が移って行くならば、神の国の働き人として、私の弟子としてふさわしくありません。」

●ポイント3.「あなたは私に従いなさい」

※ヨハネの福音書21章22節抜粋「ヨハネと比較して」 (新約p.230)

21:22 「私が来るときまで彼が生きるように、私が望んだとしても、あなたに何の関わりがありますか。**あなたは、私に従いなさい**。」

◎先週のメッセージ【サマリアの別の村へ】

《「天に上げられる日が近づいて来た頃」とは、エルサレムでの十字架刑を指しています。所で、ガリラヤからエルサレムに行くには、二つのルートがありました。一つは、ヨルダン川に沿って行く正規のルートで、もう一つは、サマリアの町を通って行くルートです。しかもサマリア経由の道は、一番距離が短く、ガリラヤから三日でエルサレムに辿り着くことが出来ました。しかし、ユダヤ人は、サマリア人を忌み嫌っていたのです。所で、主イエスがサマリア経由の道を通られたことは、実はこれが最初ではなく、公生涯初期において、一度あったことを、ヨハネは書き記しています。しかもそれは、エルサレムからガリラヤへの道程で、逆コースでした。その時、ヤコブの井戸に水を汲みに来た一人の女性によって、サマリアの町に大リバイバルがもたらされたのです。サマリアの町の人々は、主イエスに、さらに二日間にわたり滞在することを願い出ました。今回は、その時から、約三年ほどの月日が経っていたと思われます。しかし、主イエスが宿泊しようとしたサマリアの町は、主を拒否したのです。よって、主はサマリアの別の村に行かれました。聖書には書かれてはいませんが、その村は、主の訪れによって、大いなる恵みがもたらされたことは疑いのないことです。この事は、ユダヤ人が主イエスを拒否し、福音は彼らから取り去られ、異邦人に宣べ伝えられる事の予表とも言えます。主イエスがサマリアの町を後にした時に、弟子のヤコブとヨハネが、言いました。

「主よ。私たちが天から火を呼び下して彼らを焼き滅ぼしましょうか。」

これは、第Ⅱ列王記に書かれた、預言者エリヤの奇跡の事を表わしています。彼らは本気でそう言ったのです。それゆえ、主イエスは、彼らを戒められたのです。ボアネルゲ(雷の子)と、主にあだ名を付けられた彼らは、やがて、主の十字架と復活を通して性格が変えられる事になります。主は私たちの性格さえも、変えてしまわれるのです。》

◎お知らせ

※次回、第1主日礼拝は、2025年8月3日午前10時より行ないます。

